

【レビ記2章】

「あなたの穀物の捧げ物にはすべて、塩で味を付けなければならない。」13節

私たちの生活の中で、「塩」は非常に大切な役目をしています。味付けをしたり、消毒の役割をしたりします。選民イスラエル人は神のみ前に出るために、“いけにえ”が必要でした。5種類のいけにえが記されています。「全焼のいけにえ」は神の怒りを取り除くために捧げられますが、「穀物のささげもの」は礼拝者から神への贈り物としてささげられます。そしてそれは「神の契約の塩」で、すべて塩で味を付けなければならないとされています。13節に「塩で味をつけないといけない。～神の契約の塩を欠かしてはならない。～塩を添えてささげなければならない。」

イスラエルの民と神との間に欠かしてはならないのが「契約」です。「主がイスラエルの神となり、イスラエルは主の民となった」ということを表しています。出エジプト19:5「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に従ひ、私の契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあつて、**私の宝**となる。～あなたがたは私にとって**祭司の王国、聖なる国民**となる。」これは今の私達にも当てはまることです。エジプトから脱出して、約束の地カナンへ向かう途にあります。神と交わる為に幕屋を建てることをモーセに告げられ、指示通りに造り終え、その祭儀を一つ一つ指示されましたが、祭司は神に仕える身でしたから、聖なる国民の中でも特にきよく身を保ち、神に語られた通りにしなければなりません。それは万人祭司であるクリスチャンにも当てはまることです。「この世と調子を合わせてはいけません。～」神の契約の塩は不変の友情、忠誠を表すものですが、イエス様は「あなた方は地の塩」であると言っています。「もし、塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。」「～あなたがたは、自分自身のうちに塩気を保ちなさい。そして互いに和合して暮らさなさい。」世の腐敗を防ぐ力となり、和解するために必要なものです。

み声新聞の記事(874号5面)に、いじめを受けて不正を行われたけれど、それを弁護したり抗議せず、黙って赦し感謝して祈っていたら、その人達が間違いを犯した時にそれを補い、そのことを通して和解が生じ、感謝されたという記事が載っています。私たちは地の塩として、祭司の役割を果たし、神の約束してくださった宝の民としてふさわしい者となり、また聖なる民としてこの世の腐敗に交わらず、塩の役目を果たしてゆけますように！



Siloam

2016年2月28日 No.882

(シロアム:遣わされた者 ヨハネ9:7)

新年度の御言葉

ルカの福音書 3:2~4

「神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。」2節

「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」4節



~There's a golden harp in the heaven for me.~

主の十字架クリスチャンセンター The Lord's Cross Christian Center

<http://tlcccfrh.astone-blog.jp/>